

1 16版 2013年(平成25年)5月31日(全曜日)

10万時間何しますか？

退職後の20年間

名所旧跡や名湯めぐりを兼ねた自然観察や登山、植樹や草刈りのボランティア、子どもたちの森林環境教育。元北海道営林局(現北海道森林管理局)職員で札幌市南区の小林文男さん(79)はNPO法人森林遊びサポートセンター(札幌)の理事長を務める。前身組織の札幌森友会から数えて22年間で約1600回の行事を重ね、参加者は延べ4万人近くに達する。道内の登山、散策、自然観察などの約3500コ

「スを頭に入れる小林さんはこう強調する。「私は幸せ。現役の約40年間、森林の勉強をしたことが、その後の20年余の活動に役立っている」。現役時代の大半は道内で国有林の造林、森林管理などの仕事に従事。1991年の退職とほぼ同時に札幌森友会を組織し、現在のNPOに至っている。「森林づくりで地球温暖化防止の社会貢献ができ、森林に癒やされる」と満足そうだ。小林さんのように40年

わたしの周りは 超高齢社会

40年の総労働時間と同じ

間働いた総労働時間と退職後の20年間の自由時間は、共に約10万時間だといわれる。

この説を著書「10万時間の自由 定年後のライオン」で述べた小林文男さん(79)は、健康とお金に加えて「生きがいとやりがい」。

週48時間、年に52週働くと、20歳から60歳まで40年の総労働時間は9万9840時間。退職後は1日24時間から睡眠、食事を引けば自由なのは14時間。20年の総計は10万2200時間になる。

紀平さんは、小林さん

生活面に続く

わたしの周りは超高齢化社会

NPO法人の活動で、芽吹き始めた幼木を手にする小林文男さん＝札幌市北区

2013年(平成25年)5月31日(金)

40年の総労働時間と同じ

登山、旅行、講演と多彩

「GREEN REPORT」～緑化だより」では
北海道森と緑の会と一緒に緑化活動に励む元気で活発な団体や事業をご紹介します

report
01

森林遊びサポートセンター

自然に感謝し、
森づくりで恩返し



森づくりで多数の賞を受賞している(森林遊びサポートセンター)。森林整備から登山や旅行、体験講座まで、アートを幅広く楽しむ精神が、息の長い活動を支えています。



登山、旅行、講演と多彩な活動内容。アウトドアアクティビティが主体。会員アンケートで行き先を決める登山会や納山会は人気が高く、森づくりや森林環境教育の事業も含めると行事催行は昨年末で延べ1583回、参加人数は述べ3万9087人に達しまし

た、自然や登山に詳しい講師を招いて「かたる会」は札幌森友会結成当初から今も続く恒例行事です。

植林や交流で環境保全
平成6年に、「森の恵みを受けお返し」として、森づくりボランティアをこねくりと札幌市南区篠路の国有林で植林を実施。現在もこの森の手入れに通っています。依頼、少しづつ森林整備活動が増加。NPO法人化後は森林活動団体に登録し、道央圏の各地で植樹、下刈り、除伐などを行っています。ここ数年は森林環境教育にも注力。市内3つの小学校で学校林を活用した体験講座を担当し、一般向けには座学の林業実践塾を開講しています。

森づくりへの貢献に対して贈られた賞は多く、昨年は国民の森林づくり推進功労者と



して林野庁長官から感謝状が授与されました。

今年法人化10周年の同センターは、かつて会を立ち上げた仲間たちのように、アウトドアを愛する若い人たちの入会を心待ちにしています。

植林や交流で環境保全

会報には楽しい報告満載

自然に感謝し、森づくりで恩返し